

第2次刈谷市スポーツマスタープラン実施状況調査結果一覧

平成30年8月20日

1 活動プログラムの充実

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H30 (H29実施)	目標値(H30)	
成人スポーツ実施率(週1回以上)		26.0%	—	38.9%	—	39.5%	—	39.1%	—	44.6%	—	50.0%	
各種大会、イベント参加者数		16,227人	16,780人	16,459人	14,974人	23,500人	24,159人	26,701人	27,158人	27,948人	27,635人	26,000人	※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・廃止の5項目
全国大会等への出場者数		704人	707人	672人	644人	667人	646人	699人	836人	751人	453人	1,000人	
No.	事業名	29年度事業内容				人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等				担当課	
1	幼児期から体力向上への支援(指導者派遣事業)	総合運動公園指定管理者と連携し、希望があった幼稚園・保育園に対し、「なわとび」や「跳び箱」などの出張指導を実施した(※講師料は園負担)。(6園・計8回)					継続	引き続き、指定管理者と連携し、希望する園に対し運動実技の出張指導を実施する。効果・効率的な派遣方法等を検討する。				スポーツ課	
2	各種大会出場選手激励事業	H29年度より交付基準の改正を行い、国際大会・全国大会に出場する選手に対し、激励金を交付した。				453人		交付基準の改正を含め、制度を知らない市民らがいると考えられることから、制度の周知方法の検討を行う。					
3	ホームタウンパートナー事業	各チームの担当者及び愛知学院大学内藤講師と連絡会を3回開催し、連携の強化等を図った。リーフレットやうちわ、横断幕等の作成や活用、市民だよりやHPでの広報、WA刈谷やオアシス館、刈谷駅前観光案内所や刈谷駅南北連絡通路、わんさか祭り等での広報啓発活動によりチームの周知を図った。刈谷キラキラ教室の開催(3回)及び観戦機会の提供(6試合のべ433名)を行った。					拡大	チームとの関係強化に取り組み、キラキラ教室を始めとするイベントへ積極的に協力してもらうことでより効果的なスポーツ振興に努める。					
4	国際スポーツ大会等招致事業	誘致推進委員会の開催(2回) フットサルフリーグプレシーズンマッチの開催(H29.6.4)及び日本代表トレーニングキャンプの受入れ(H29.10.16~18) バスケットボール女子日本代表国際強化試合の開催支援(H29.7.8~9) 競技団体等への訪問等による招致に関する調査、PR等の実施						東京オリンピック競技大会出場国キャンプ地誘致に係る誘致目標国の競技団体関係者等に向けた直接的な招致PR活動。					
5	国際交流振興事業	愛知万博フレンドシップ相手国であるカナダとの交流を進めるため、カナダの市民スポーツであるストリートホッケー体験交流会をミササガパーク内にて11月12日(日)に開催し、約70名が参加した。				70人		参加者が固定的になってきているところがあるため、広く周知を図り、幅広い世代の参加者を募る必要がある。				市民協働課	
6	スポーツ等奨励事業	スポーツの国際大会や全国大会等に出場する障害者に激励金を交付し、障害者スポーツの振興を図った。				18人		スポーツ振興を目的とし、スポーツの国際大会や全国大会等に出場する障害者へ激励金を交付している。また、大会の種類も多様化しており、大会参加者の把握が今後も重要となってくると考えられるので、関係機関と連絡調整を行い大会参加者を把握していくよう努める。				福祉総務課	
7	スポーツ・レクリエーション事業委託(心身障害者福祉館管理運営事業)	心身障害者福祉会館において、スポーツ・レクリエーション講座(3B体操・機能訓練)を開催した。3B体操 延べ368人、機能訓練 延べ235人。				603人		参加者のニーズを把握し、より多くの障害者が参加できる講座を開催していくよう努める。					
8	高齢者団体等助成事業	高齢者の自主的な健康づくりと生きがいづくり、仲間づくりの推進を目的に、刈谷市老人クラブ連合会活動の一環として、春と秋に歩け歩け大会を実施している。【春】H29.5.19 場所:岩ヶ池公園周辺 923人、【秋】H29.10.11 場所:刈谷青果市場周辺 812人				1,735人		今後、益々増加していく高齢者に対して、老人クラブへの加入奨励などを積極的に行うとともに、老人クラブ活動を通じて自らの健康管理やスポーツ施設利用への意欲を促し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。				長寿課	
9	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	高齢者の自主的な健康づくりと生きがいづくり、仲間づくりの推進を目的に、刈谷市老人クラブ連合会への委託事業としてゲートボール大会およびグラウンドゴルフ大会を実施している。【ゲートボール大会】雨天中止 場所:総合運動公園自由広場、【グラウンドゴルフ大会】H29.9.21 場所:総合運動公園自由広場、芝生広場 422人				422人	継続						
10	高齢者交流プラザ管理運営事業	高齢者の介護予防と生きがいづくりを目的に、高齢者交流プラザの事業の一環として高齢者福祉センターで実施(2講座)している。 ○ゆっくりとした健康運動法「意身功」を学ぶ。月曜日(月2回~3回) 前期:H29.4.10~9.25、後期:H29.10.16~H30.3.19 ○ボールなどを使い、音楽に合わせて身体を動かす。金曜日(月2回~3回) 前期:H29.4.14~9.8、後期:H29.10.6~H30.3.9				1,115人		今後、益々増加していく高齢者に対して、各施設で実施している事業紹介などを積極的に行うことで、自らの健康管理や施設利用へと結び付けるとともに、事業内容や施設設備などの充実を図り、高齢者の生きがいと健康づくりを支援していく必要がある。					
11	いきいきプラザ管理運営事業	高齢者の機能訓練とリハビリの拠点として位置付けられた、一ツ木福祉センターのいきいきプラザの事業の一環として、運動機器や機能訓練プールなどを使用した運動を実施している。その他講座は以下のとおり。 ・いきいき元気講座(前期H29.5.12~8.4)12回、いきいきトレーニング講座(後期H29.9.1~12.15)15回 ・いきいきヨガ講座(前期H29.5.9~8.22)15回、いきいき太極拳講座(後期H29.9.5~12.12)15回 ・プール教室(毎週木)、にこにこ教室(毎週火)、のびーる教室(毎週水)				40,820人		今後、益々増加していく高齢者に対して、施設で実施している事業紹介などを積極的に行うことで、自らの健康管理や施設利用へと結び付けるとともに、事業内容や施設設備などの充実を図り、高齢者の生きがいと健康づくりを支援していく必要がある。					

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課	
12	ぬくもりプラザ管理運営事業	高齢者の健康増進と生きがいづくりを目的に、ぬくもりプラザの事業の一環として実施(2講座)している。 ・健康体操 隔週火曜日 前期:H29.4.4~9.5 294人、全12回、後期:H29.10.3~H30.3.6 290人、全12回 ・元気アップ運動 隔週火曜日 前期:H29.4.11~9.12 213人、全9回、後期:H29.10.11~H30.3.6 209人、全10回	1,006人	継続	今後、益々増加していく高齢者に対して、各施設で実施している事業紹介などを積極的に行うことで、自らの健康管理や施設利用へと結び付けるとともに、事業内容や施設設備などの充実を図り、高齢者の生きがいと健康づくりを支援していく必要がある。	長寿課	
13	運動機能向上機能	要支援1・2と認定された者又は基本チェックリストにより運動器の機能低下が認められ、介護ケアマネジメントの結果、事業への参加が必要とされる場合に、運動機能の向上と介護予防を目的とした運動を行う。1期(クール)22回で、市内7か所の事業所(老健・デイサービス)への委託事業である。第1期 H29年5月~7月 28人、第2期 H29年9月~11月 40人、第3期 H30年1月~3月 38人	106人		介護予防・生活支援サービス事業の通所型サービス(短期集中サービス)に位置づけし、事業を継続するとともに、介護予防把握事業の結果を地域包括支援センターと共有し事業と結びつける。		
14	高齢者スポーツ等奨励事業	第30回全国健康福祉祭あきた大会(ねんりんピック秋田2017)に愛知県代表として出場する選手に対し、激励金を交付した。 種 目:卓球、剣道、サッカー、太極拳、健康マージャン	7人		高齢者のスポーツへの参加を促す動機付けとして大きな役割を果たすことから、事業を継続する。		
15	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	高齢者の自主的な健康づくりと生きがいづくり、仲間づくりの推進を目的に、刈谷市老人クラブ連合会への委託事業として健康度評価チェック事業を実施している。 場 所:あいち健康の森 実施日:H29.11.14(北部地区老人クラブ) 36人、H29.11.22(中部地区老人クラブ) 30人、H29.11.29(南部地区老人クラブ) 28人	94人		クラブ活動を通じて自らの健康管理やスポーツ・健康関連施設利用への意欲を促し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。		
16	地域リハビリテーション活動支援事業	地域における介護予防の取組を機能強化するため、住民主体で運営する通いの場や老人クラブにリハビリテーション専門職等を派遣し、運動指導等を行う。延べ9団体。	174人		元気な高齢者を増やすために介護予防の取り組みが重要であるが、特に地域において自主的に実施することを目指している。そのため、地域の介護予防活動を支援する体制づくり及び積極的に活用してもらうための事業紹介を行う。		
17	市民健康講座	健康日本21かりや計画に基づいて実施。健康的な生活習慣を身につけるための正しい知識の普及啓発の場として講座を年15回開催している。運動に関して、ロコモティブシンドローム予防などの実技を計3回実施。	635人		講座内容により市民の関心度にばらつきがあるため、タイトルや啓発方法の工夫や、複数回参加者への特典などにより、参加者の関心を高め、参加者数の増加を図る必要がある。最新の健康情報や市民のニーズを把握し、よりよい内容を検討する必要がある。	健康推進課	
18	特定保健指導	特定健診を受けた40~75歳の人で、特定保健指導が必要と判定された人のうち希望者に栄養指導、運動指導等を行い、生活習慣改善の支援をしている。また、トレーニング機器を利用して、運動のきっかけづくりや定着を図ることができる施設であるげんきプラザの利用を勧奨している。	102人		健康づくりにおける運動分野は栄養分野とともに健康の保持増進を図る上で両輪の役割を担うものであり、非常に重要な分野である。急速な高齢化に向けて医療費抑制を目指すためにも、参加機会の拡大、きっかけづくりなど、今後もより一層充実・拡大が求められる事業であると考えている。げんきプラザの利用もさらに勤めていきたい。		
19	健康づくり推進員養成講座	健康づくりを地域で推進するリーダー(保健推進員・食生活改善協議会会員)を養成するための講座を年10回のうち3回(食生活改善コースは2回)、運動やウォーキングの基本等についての内容を実施。	55人		縮小	健康づくりにおける運動分野は栄養分野とともに健康の保持増進を図る上で両輪の役割を担うものであり、非常に重要な分野である。急速な高齢化に向けて医療費抑制を目指すためにも、参加機会の拡大、きっかけづくり、リーダーの養成など、今後も、より一層充実・拡大が求められる事業であると考えている。	
20	保健推進員による健康づくり事業	刈谷市保健推進員連絡協議会に健康づくり事業を委託。保健推進員は地区活動として各地域で健康づくり事業を開催している。地区活動4,594人(延人数)	205人		継続		
21	かりやヘルスアップ大学	自己の健康を見直し、健康的な生活習慣について学ぶと同時に、地域の健康づくりに貢献できる人を育成するための「健康大学」かりやヘルスアップ大学を開催している。大学の開学期間は1年間で26回の講座を開催。50~60歳代が対象で、男14人、女性22人の合わせて36人参加。	36人		縮小	至学館大学と連携し、健康づくりにおける専門的知識の提供を行い、また実技を通して適切な運動方法や身体ケアの方法を学ぶことで、運動習慣等を身につけるきっかけの場となっている。定員36人に対し、31人の参加のため、内容の検討が必要である。	
22	かりやヘルスアップ大学【スキルアップセミナー、特別講座】	【スキルアップセミナー】大学を卒業した卒業生を対象に、継続して専門的な知識が得られる場所の提供と、継続して健康づくりに取り組めるよう動機付けを行うために、講義や交流会を行う。10月に開催。【特別講座】ヘルスアップ大学年間カリキュラムの一部講義を市民に開放し、事業の周知を図るとともに健康づくりのきっかけとなるよう知識普及を図る。2月に開催。スキルアップセミナー31人、特別講座38人。	69人	廃止	募集しても、定員に満たない状況だった。		
23	足指チェックでげんき教室	介護予防の一次予防事業として、高齢者の歩行機能の維持向上のため、足の運動及びケアについて学ぶ教室を平成18年度から開催。65歳以上を対象とし6地区において、1コース3回で実施。	159人		平成29年度をもって全地区で3回ずつ開催できたため、終了とする。		

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課
24	げんき応援事業 げんき度測定・個別支援教室	【げんき度測定】生活習慣の問診や、身体測定、体力測定を行う。結果表をもとに自分の健康状態・生活習慣・体力の状況を知り、問題点・改善点を把握したうえで、自ら健康づくりに取り組めるよう働きかけている。週3日開催。託児(カンガルールーム)付きの測定を4回実施。1,063人(実人数)。 【個別支援教室】一人ひとりの健康状態に応じ、専門スタッフによる適切なアドバイスを受けながら、トレーニング機器を利用した運動の実践や、必要に応じ、医師・管理栄養士等の面談や講話を受け、運動の定着を促すための教室を開催している。36,270人(延べ人数)。	37,333人		げんき度測定の新規受検者数を増加させるため、勧奨方法を検討し、より多くの市民に利用してもらう。安心・安全に利用できる施設として運営できるよう、委託先である愛知県健康づくり振興事業団との連携を強化する。他の公共運動施設との情報交換を行い、連携を強化し、運動習慣定着者が運動方法や運動施設を選択して、運動を継続できるような体制づくりに向け、検討していく。	健康推進課
25	げんき応援事業 集団運動教室	運動不足の人に、楽しく体を動かし、家庭に帰ってからの運動習慣の定着化を図る場として開催。・たのしく筋トレ・・・家庭でできる筋力アップ運動を体験する。8回コース、1年3クール開催。・かんたんエアロ・・・音楽に合わせて楽しくからだを動かす、基本ステップを学ぶ。8回コース、1年2クール開催。・みんなで運動!健康ぶらす・・・運動習慣がない方向けのレクリエーションを中心した運動を体験する。6回コース、1年2クール開催。・癒しヨガ・・・心身のリフレッシュのため、レクリエーションを楽しみながら体を動かす楽しさを知ってもらう。5回コース、1年2クール開催。	1,317人		教室により応募人数にばらつきがあること、男女差や年齢層も幅広いため、勧奨方法、教室の内容等検討していく。また、教室参加者に教室終了後も運動の継続につながるような意識付けをしていくことが課題である。今後も、安心・安全に利用できる施設として運営できるよう、委託先である愛知県健康づくり振興事業団との連携を強化していく。	
26	健康いちばん教室	介護予防の一次予防事業として、閉じこもり予防や転倒予防のため、老人クラブや地域の協力を得て、運動教室を開催。市内全域での老人クラブの継続的自主開催を目指し、支援を継続している。9地区で開催中。	1,166人		介護予防の観点に基づき、元気な高齢者を増やすために、自分の現状を確認し、健康を維持増進できるような事業が求められていると考える。地域での取り組み状況を確認し必要に応じて、現在健康いちばん教室を開催していない老人クラブ等団体にも働きかけ、実施していく予定。	
27	子ども会活動育成支援事業	刈谷市子ども会育成連絡協議会、刈谷市相模連盟、アイシン精機株式会社と連携し、第46回刈谷市子ども会すもう大会を開催し、企業と子どもによる交流の場を設ける支援をした。11月4日開催。	100人		少子化、スポーツ参加の場の多様化により子ども会の参加者が減少している。	子育て推進課
28	子ども会活動育成支援事業	刈谷市子ども会育成連絡協議会と連携し、子ども会球技大会(ドッジボール)、子ども会すもう大会において、子どもたちのスポーツ参加の機会を提供し、子どもたちの体力向上に役立てた。子ども会球技大会6月18日開催、子ども会すもう大会11月4日開催。	600人		少子化、スポーツ参加の場の多様化により子ども会の参加者が減少している。	
29	子ども会活動育成支援事業(補助)	市内で活動する単位子ども会を補助することで、活発な活動を促し、より多くの交流の場が設けられるようにした。	3,578人	継続	少子化、スポーツ参加の場の多様化により子ども会の参加者が減少している。また、地域活動の多様化により子ども会への負担も増大している。	
30	赤ちゃん体操・ベビー体操教室	生後5か月～6か月のお子さんとその母親を対象とし、3回講座で実施。ベビー体操では講師を招き、赤ちゃん体操では職員が担当し(3回目のみ、講師を招く)、赤ちゃんのマッサージの仕方や赤ちゃんとともにできるストレッチや体操を紹介したり、その場で実践してもらったりすることで、産後運動不足の解消に役立ち、赤ちゃんを育てながら健康に過ごすことへの支援を行った。	2,284人		出産後の母親のニーズに応え、母子の心身の健全な育成のために、今後も支援していく必要性があり、そのために講師を依頼して行う講座を主に計画・実施していく。	子育て支援課
31	スポーツ教室	市民サッカークラブであるFC刈谷運営組織である「特定非営利法人かえるスポーツクラブ」により、運動の苦手な子どもにも参加しやすいプログラムを提供していただき、園児の健全な育成に資することを目的として、公立幼稚園16園・保育園10園の5歳児を対象に年間2回、1回約1時間、40名以内で実施。コーディネーション・バランストレーニング(鬼ごっこ、片足立ち、ストップ動作など)から無理なく楽しく子どもたちが体を動かした後で、ボールに触れミニサッカーゲームを行うなど、子どもの興味をひく様々な動きを取り入れた内容であった。	2,632人		FC刈谷の選手と園児が交流するとともに、体を動かすことの楽しさを感じながら、基礎的な運動技術や体力の向上を図る。また、あいさつやルールを守る大切さ、話を聞く姿勢など 指導員の方から学ぶ機会ともなるようにし、更なる園児の健全な育成に努める。	子ども課
32	実技研修(体育)	保育の専門知識、技術を確認することを目的とし、子どもの発達に合った運動遊びの研修を実施した。それぞれの園の子ども発達と運動遊びにおける課題を考えて講師や内容を選定し、保育士は多様な運動遊びの指導法を学ぶことができた。学んだ知識や技術を子どもと一緒に実践することで、体を動かす楽しさを体感することができた。	212人		研修を受けた内容を応用して保育や運動会に取り入れている。又、子どもの体力向上につながっているという報告も聞いている。子どもの発達と興味から子どもに経験させたい運動遊びについて学べる研修を引き続き実施していきたい。	
33	一般教材整備事業	小中学校の教材用備品として備品を購入した。小学校・・・スターティングブロック、バスケットゴール等、中学校・・・防球フェンス、サッカーゴールネット等			小中学校の教材用備品として備品を購入する。	教育総務課
34	体力向上プロジェクト推進支援事業	中学校では、6中学校が統一して取り組む活動を検討した上で実施した。小学校では、外遊び検定を実施し、外遊びを奨励した。コーディネーショントレーニングの幼稚園・保育園児及び中学生向け指導者講習会を実施した。全小学校にコーディネーショントレーニングの講師を1回(1時間程度)ずつ派遣し、低学年児童を対象に体づくり運動の授業を行った。	1,560人		各校の体力向上の取組については、体育主任者会で実施状況を把握し、課題を解決できるようにする。刈谷市オリジナル体操は、音源を音楽部に依頼し、CDを作成し、園・小・中に配布できるようにする。また、コーディネーショントレーニングの定着を図るため、コーディネーションを取り入れた刈谷市オリジナル体操づくりを講師に依頼し、園・小・中の教諭対象に指導者講習会を実施する。	学校教育課

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課
35	スポーツ重要性啓発事業	スポーツをすることの意義だけでなく、子どもたちの健康づくりのために、睡眠や食事、テレビやゲームの視聴時間の削減など、規則正しい生活習慣の確立をめざした指導にも力を入れてもらえるように、各種会議や学校訪問等で依頼した。「体育の授業の充実」、「生活習慣の改善」、「運動機会の設定、外遊びの奨励」を三本柱に、各学校での体力向上にむけた取り組みを一層推進する。			体力テストや運動習慣調査の結果などを使った指導のもとに、生活習慣の改善や運動機会の獲得について、自主的に行動できる子どもを育成したい。	学校教育課
36	スポーツを通じた交流の促進(地域等)	各種企業やスポーツ連盟の協力を得てのスポーツ大会等の行事、福祉実践教室や祖父母参観等の学校行事において、スポーツを通して様々な人と交流できるような場を設定するように努力した。			スポーツ課が開催するキラキラ教室に参加したり、一流チームの試合を観戦する機会を紹介したい。	
37	スポーツを通じた交流の促進(企業スポーツ)	企業スポーツの関係者から要望があれば、各学校に情報を提供し、学校行事や授業等で専門家によるスポーツ教室を実施する機会を提供できるようにしている。			授業で企業チームの選手を指導者として迎える学校が見られた。今後も増えるように努力したい。	
38	スポーツの重要性の啓発	各学校においてはPTA行事等で、学識者やスポーツインストラクターの講演会や講習会、親子でスポーツに親しむ機会を設定し、保護者に対しても、スポーツすることの意義、健康づくりの重要性について周知されるようにさらに働きかけた。			PTAや部活動などの活動で、親子でスポーツに親しむ機会を設定する学校も見られた。今後も、こうした活動を広めたい。	
39	総合型地域スポーツクラブへの加入促進事業	中学校区を活動単位とする総合型地域スポーツクラブが整備されている。そのため、まずクラブ構成員の子どもたちの参加を契機に、児童生徒の加入が促進されるように各校にお願いした。また、総合型地域スポーツクラブ研究会に参加し、定期的にスポーツクラブの代表者との情報交換をした。			加入数が増えている地域があるが、さらに加入促進努力が必要である。	
40	市民講座	各センターの市民講座において、健康づくりや子どもの体力向上に関する講座を実施した。前期:親子ふれあい体操講座をはじめ8講座 計144人、後期:初めてのピラティスをはじめ5講座 計92人	236人		市民講座・高齢者教室ともに、今後も市民ニーズに応えられるよう適切な内容を設定して、実施していく。	生涯学習課
41	高齢者教室	全6講座のうちの1講座を至学館大学の公開講座に割り当て、健康づくりに関する講義を実施した。	28人			
42	よかよかガイドの作成・配布	市が実施する生涯学習関係事業を市民に情報として提供するため、生涯学習情報誌『よかよかガイド』を年間で各5,400部作成し、公共施設において配布した。		継続	今後も継続して情報誌を作成し、学習機会の提供に努める	
43	指定管理者自主事業(教室の開催)	指定管理者による教室が開催された。陸上、水泳、スタジオ(ダンス等)等	70,580人		事業の充実を図る。	スポーツ課
44	体育協会主催事業	市民の誰もが参加できる刈谷市長杯を各連盟主催により開催した。また、日本リーグ等をはじめとする様々な大会を連盟等の主導により開催した。	7,127人		現在のプログラムは数、質ともに豊富ではあるが、認知が低いイベント等もあるので、より多くの参加者が得られるよう、効率的かつ効果的な啓発活動を行う。	
45	レクリエーション協会主催事業	市民の誰もが参加できるレクリエーション大会を各協会主催により開催した。	1,771人		現在のプログラムは数、質ともに豊富ではあるが、定員に満たないイベントや教室等もあるので、より多くの参加者が得られるよう、効率的かつ効果的な啓発活動を行う。	
46	スポーツ教室開催(指定管理者指定)事業	総合運動公園体育施設の指定管理者再指定に合わせ、教室の運営主体を市から指定管理者へ移管した。スポーツ教室を指定管理者指定事業として、9教室、各年3期開催した。また、ミニテニス教室には臨時保育室(カンガルールーム)を設置し、子育て中の世代が参加しやすい環境を整えた。	882人		指定管理期間内において、指定管理者による既存事業との重複や各競技団体等への実施主体の移行の可能性等を見極め、教室の継続実施や各競技団体等への実施主体の移行を検討する。	
47	各種大会開催事業	市民が日頃愛好している競技のうち、4大会を開催した。(H29.11.26刈谷GOGOウォーキング137人、H29.8.6ミニテニス交流大会86人、H29.9.24一万人卓球大会729人、H30.2.25ユニホッケー大会84人)	1,036人		ミニテニス交流大会はミニテニス協会に大会の開催を移行するため、3大会について開催する。(刈谷GOGOウォーキング、一万人卓球大会、ユニホッケー大会) 各競技団体の組織力や運営能力等も踏まえ、競技団体による自主的な大会開催への移行を促進する。また、各競技団体による自主運営が可能となるよう、競技団体の育成に努める。	
48	ニュースポーツ普及事業	誰もが気軽に楽しめるニュースポーツを普及し、スポーツへの関心を持つきっかけと環境づくりを推進するため、スポーツふれあいdayを年14回、ノルディック・ウォークステーションを年11回開催した。	770人		スポーツをはじめのきっかけとして、その手段の1つであるニュースポーツの認知・普及のため、魅力あるイベントを企画・実施する。また、活動を広く市民に知ってもらうため効率的・効果的広報活動を行う。	
49	各種大会補助事業	競技者の拡大と競技力向上及び競技団体の強化を図るため、本市で開催された、日本女子ソフトボールリーグをはじめとする16の大会に補助金を交付した。			みる・ささえるスポーツを通じて、本市の更なるスポーツ振興をはかるため、事業を充実させ、全国大会や世界大会の積極的な誘致を行う。	
50	愛知万博メモリアル市町村対抗駅伝選手派遣委託事業	刈谷市選抜の選手団20名を派遣し、市の部で第10位の成績を収めた。H29.12.2開催	20人		陸上競技連盟等を中心に選手の育成と発掘に努め、上位入賞を目指す。世代ごとの選手選考及び発掘が課題である。H30.12.1開催予定	

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課
51	かきつばたマラソン大会開催事業	参加者の安全面に考慮してコースの一部変更を行い、1.5、3、10km、ジョギング男女別、年齢別の9部門で開催した。また、今回大会は本市ホームタウンパートナーチームであるシーホース三河との協力により参加賞としてコラボTシャツ等を作成した。H30.2.11開催	2,178人	継続	より安全で多くの市民ランナーに参加してもらうため、コースの選定やイベント内容及び運営体制の検討が必要である。	スポーツ課
52	体力測定事業	国の体育・スポーツ活動の行政上の基礎資料とするため、スポーツ推進委員の協力により体力測定を開催した。H29.7.22	48人		調査時に、国及び県が要望する標本数を満たすため、対象となる年齢層の市民に参加してもらう必要がある。	
53	体育協会による功労者表彰や総合式典での表彰	各種団体からの推薦書を元に、表彰基準を満たしている場合は、体育協会による審査を行い、認められる場合は功労者表彰等を行う。その他に、本市の基準を満たす選手や団体については、総合式典での特別表彰等に推薦する。			必要に応じ、適宜基準等の見直しを行う。	
54	宝くじスポーツフェアドリーム・サッカー開催事業	宝くじスポーツフェアドリーム・サッカーin刈谷をウェーブスタジアム刈谷で開催 H30. 1.13(土) 指導者クリニック 参加者数20人 H30. 1.14(日) 少年少女サッカー教室 参加者数213人 アトラクション(PK戦) ドリーム・ゲーム(日本代表OB対刈谷市選抜)		完了	一般財団法人自治総合センターの公募採択事業につき、平成29年度の単独事業として実施。市のスポーツ振興や活性化に有効なスポーツイベントの積極的な誘致	

1 活動プログラムの充実の総計 183,168人

2 クラブ・団体の育成

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H30 (H29実施)	目標値(H30)	
スポーツクラブ加入者数	31,415人	30,603人	30,970人	29,804人	28,883人	26,817人	27,533人	26,404人	26,335人	25,794人	32,000人	※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・廃止の5項目
総合型地域スポーツクラブの認知度	—	—	—	—	—	35.6%	—	—	—	29.1%	70.0%	

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課
1	総合型地域スポーツクラブ関連情報の市民より掲載	市民だよりに年2回、1/2ページ紙面を確保して、市内全ての総合型地域スポーツクラブの活動内容やプログラムの紹介を行った。		継続	毎年継続的に実施していることなので、マンネリ化を招く恐れがあり、新たな切り口でPRすることが必要である。	広報広聴課
2	総合型地域スポーツクラブの普及啓発活動	市民だよりに年2回(4/15号と9/1号)、1/2ページ紙面を確保して、市内全ての総合型地域スポーツクラブの活動内容やプログラムの紹介を行った。また、『一(いち)市民一(いち)スポーツ~そろそろ運動始めませんか~』をテーマにビデオ広報の作製に取り組んだ。			効果的な紙面づくりとPR方法の検討を行うとともに、記事の内容精査と掲載時期についても検討を要する。	スポーツ課
3	総合型地域スポーツクラブ育成事業	総合型地域スポーツクラブ研究会を年6回開催し、会員の確保や安定的な財源の確保、クラブの魅力向上などに向け、情報の共有や意見交換等を行った。また、研究会での協議を基に、県の総合型地域スポーツクラブアドバイザーを講師に招いた講習会や6クラブの共通種目であるバドミントンと卓球の交流会を開催した。クラブ運営補助として1クラブに対し補助金を交付した。(クラブに対する運営補助は29年度をもって完了)	2,208人		会員の確保、活動拠点の確保、安定的な財源の確保、運営スタッフの充実、組織力の強化等、各クラブの自立及び経営の安定化に向けた新たな支援策の検討。	
4	刈谷市レクリエーション協会補助事業	刈谷市レクリエーション協会に対し補助金を交付し、協会および加盟団体による大会およびイベント等の開催を支援した。	846人		市内のスポーツ・レクリエーションの更なる普及・振興を図るため、協会所属団体が主体性を持って継続的、組織的に活動できる仕組みと次世代を担うレクリエーションリーダーの養成は必要である。	
5	刈谷市体育協会補助事業	刈谷市体育協会に対し補助金を交付し、協会および加盟団体等による大会およびイベント等の開催を支援した。加盟人数は体協11,966人、スポ少706人。	12,672人		本市における体育・スポーツ団体の中心的な組織として、継続した活動を行うため、安定した財源確保に努めていく必要がある。	

2 クラブ・団体の育成の総計 15,726人

3 施設の整備・充実・開放		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H30 (H29実施)	目標値(H30)	
スポーツ施設の利用に満足している人の割合		—	—	—	—	—	66.6%	—	—	—	74.2%	70.0%	※評価(方向性)は、拡大・ 継続・縮小・完了・廃止の5項目
スポーツ施設の利用者数		412,099人	374,390人	410,311人	439,130人	439,085人	488,370人	494,933人	501,900人	504,695人	536,336人	450,000人	
No.	事業名	29年度事業内容				人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等					担当課
1	学校スポーツ開放事業	各小中学校開放運営委員会及び管理指導員による施設開放の実施や学校開放施設の修繕、競技用備品の購入を実施した。 利用件数 9,797件 利用人数 210,428人				10,068人	継続	施設利用の効率化や各学校の開放運営委員会事務担当者の負担軽減を図るための、学校スポーツ開放のあるべき姿や実施方法等を見直し、検討する。					スポーツ課
2	学校スポーツ開放事業意見要望	各学校から、スポーツ開放等についての意見や要望があれば対応するようにした。また、「総合型地域スポーツクラブ研究会」において各スポーツクラブや学校の情報や意見を収集し、改善するように努力した。						施設利用において、学校との話し合いをもってスムーズに進めることができています。					学校教育課
3	交流圏、日常生活圏のスポーツ施設の充実	各学校から、スポーツ開放等を通して、学校の体育施設・設備についての意見や要望があれば対応するようにした。						各種大会を公共施設を使って行うことができている、子どもたちの励みになっている。					
4	施設管理事業	南部・北部・中央生涯学習センターにおいて、直営又は指定管理者により施設の適正な管理運営を行った。						引き続き、利用者ニーズの把握に努め、より良い施設運営を図る。					生涯学習課
5	企業体育館の借用業務	市内の企業体育館を借用したい団体を取りまとめ、企業側へ一括して借用申請を行うことで、市民の活動場所の確保に努めた。借用企業体育館…2箇所				185人		借用企業体育館数…1箇所(施設改修により1箇所で行う) 企業との連携を密にして推進するとともに、ホームタウンパートナー制度に基づく企業チームとの連携による事業の整理が必要である。					スポーツ課
6	(仮称)逢妻川河川敷運動広場整備事業	県の総合治水対策特定河川事業に伴うスポーツ施設の整備を実施する事業であるが、県の総合治水対策特定河川事業の見直しがあり、進捗しなかった。						県の総合治水対策特定河川事業の進捗次第では、施設整備に着手が可能となる予定。県の河川工事の進捗により、順次整備していくが、翌年度以降の計画は未定である。					
7	指定管理者定期連絡会議	施設の維持管理と現状について、月1回の打ち合わせ(コナミ、エアワン、サンエイ、公園緑地課)を行うとともに、広報計画、各種事業、企画イベント等の検討を行った。						安心、安全な施設利用の提供と魅力ある事業が開催できるよう協議を重ねる。					
8	総合運動公園管理事業	管理業務の効率化や利用者の利便性の向上等を図るため、平成29年度より、総合運動公園と公園内体育施設について、指定管理者による一元的な管理運営を始めた。公園施設を活用した新たな取組として、指定管理者によりウィンターイルミネーションとプロジェクションマッピングが実施された。						円滑な管理運営方法の検討及び公園と体育施設の一元管理手法を活用した来館者等の利便性等の向上につながる新たな取組の検討。					
9	ウイングアリーナ刈谷等施設管理事業	ウイングアリーナ刈谷、ウェーブスタジアム刈谷及びグリーングラウンド刈谷の管理及び運営を指定管理者に行わせることにより効率的な管理運営を行った。また、指定管理者により自主事業のスポーツ教室等が開催された。						10年が経過し、今後の施設の維持管理計画を考えていく必要がある。					
10	体育館等施設管理事業	刈谷市内の体育施設(刈谷市体育館他7施設)の施設管理及び運営を指定管理者に行わせるなど効率的に行い、円滑な管理運営を行った。						指定管理範囲外の施設のより円滑な管理運営方法の検討及び体育館の施設維持老朽化対策。					
11	ウイングアリーナ刈谷等施設改修事業	ウイングアリーナ刈谷のメインアリーナ床修繕を実施した。						今後、施設の老朽化と突発的な対応と、計画的な改修が必要になる。					
12	体育館施設改修事業	刈谷市体育館…吊物設備取替修繕、外壁改修等工事、空調設備更新工事、弓道場安土改修工事他 刈谷球場…消火設備取替修繕、球場外野クッションフェンス改修工事、電灯変圧器取替工事、便所排気ファン取替工事 小垣江、双葉グラウンド…防球ネット増設工事を実施した。						施設の老朽化により、予期しない修繕等も考えられるため、日頃の点検を強化したうえで維持管理計画を考える必要がある。					

3 施設の整備・充実・開放の総計 10,253人

4 指導者・リーダーの育成

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H30 (H29実施)	目標値(H30)	
指導者名簿搭載者数		75人	—	56人	—	247人	—	191人	203人	205人	203人	270人	※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・廃止の5項目
学校部活動の外部指導者数		9人	9人	18人	19人	17人	17人	20人	25人	25人	22人	20人	
No.	事業名	29年度事業内容				人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等					担当課
1	障害者団体補助金交付	障害者団体に補助金を交付し、団体が実施するスポーツ・レクリエーション事業(ポッチャ大会など)を支援した。						<補助先>刈谷市身体障害者福祉協会、刈谷手をつなぐ育成会、刈谷市肢体不自由児者父母の会					福祉総務課
2	部活動外部指導者活用事業	各学校の要望に応じて、合計22名(19名:年間200時間、3名:年間100時間)を配置した。武道の指導には特に専門的な知識と技能が求められる中、外部指導者を活用することで、レベルを上げることができた。				22人	継続	部活動顧問の教員と外部指導者が、生徒への指導について話し合い、共通理解しておくことで効果的な指導ができる。					学校教育課
3	外部指導者の知識と技術の向上	29年度に県の事業が廃止となり、新しい機会を模索し、検討した。					完了	年に1回の研修会ではなく、定期的に研修会を行い、外部指導者の知識向上を図りたい。					
4	優れた指導者の育成と確保	企業スポーツの関係者から、仕組みづくりについて学校関係者に対する要望があれば協力するように努力した。また、学校からはどのような人材に来てほしいか等、情報や意見を収集し、調査・研究を進めた。						地域性を利用した指導者育成機会を考えていきたい。					
5	スポーツリーダー養成講座事業	市民の生涯スポーツ活動の推進役となるリーダーを育成するため、平成29年度は心身ともにリラックスできる方法の習得をメインテーマに、愛知教育大学教授 筒井氏による「どうしたら100%の力を発揮できるのか?(スポーツ心理学)」「(座学)とヨガインストラクター 津熊氏による「からだの緊張のほぐし方(ヨガストレッチ)」「(実技)を開催した。H30.3.24開催				38人	継続	現状、生涯学習指導者名簿への掲載のみである養成したリーダーを活用するシステムについて、更なる拡充策を検討する。また、参加者数の増加に向け、実際に現場で活躍されている指導者などへの効率的、効果的な広報啓発活動を行う。					スポーツ課
6	スポーツ推進委員事業	市民のスポーツ活動の促進及び組織の育成等、スポーツの普及・振興に努めるスポーツ推進委員50名の活動を支援した。また、委員の資質向上のための研修を実施した。また、スポーツ推進委員だよりを作成し、スポーツ推進委員の活動より多くの市民に知ってもらうため、地区に発信した。				50人		研修への参加などによりスポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、要望に基づく推進委員の地域への派遣やスポーツ推進委員活動の住民へのPRなどの推進委員の活動支援により、地域スポーツの推進を図る。また、総合型地域スポーツクラブの運営への推進委員の参画を促進する。					

4 指導者・リーダーの育成の総計 110人

5 情報の提供

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H30 (H29実施)	目標値(H30)	
スポーツ行事の情報を知らなかったと回答した人の割合		13.5%	—	—	—	—	13.7%	—	—	—	17.2%	10.0%	※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・廃止の5項目
No.	事業名	29年度事業内容				人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等					担当課
1	市民だより掲載及び報道各社への情報提供	刈谷市、総合型地域スポーツクラブ、体育協会、レクリエーション協会及びその加盟団体が主催するプログラムや活動内容について、市民だよりやホームページに掲載し、わかりやすく積極的に紹介した。必要に応じて新聞等に積極的に情報提供をした。						情報提供は、多くが継続的に実施していることなので、マンネリ化を招く恐れがあり、新たな切り口でPRすることが必要である。情報提供先への誤情報の発信は絶対にあってはならない。					広報広聴課
2	刈谷市拠点トップアスリートのPR	活躍するトップアスリートに関する情報をマスメディアに提供するとともに、市民だよりで「TEAM刈谷の挑戦!」と題したコーナーを設け、ホームタウンパートナーを毎月1チームずつ取り上げ注目される選手を紹介したり、ホームタウンパートナーにより催されるイベント等の記事を掲載し、市民への認知度を高めた。						地元密着型のマスメディアと同様に市広報職員も積極的に取材を行っている。情報提供先への誤情報の発信は絶対にあってはならない。					
3	各媒体への情報提供活動	CATVのキャッチやコミュニティーFMのピッチ、ホームニュースや各新聞社やNHKへ積極的に情報提供を行った。						地元密着型のマスメディアと同様に市広報職員も積極的に取材を行っている。情報提供先への誤情報の発信は絶対にあってはならない。					
4	市政情報発信手段の活用	総合型地域スポーツクラブ、体育協会、レクリエーション協会及びその加盟団体が主催するプログラムや活動内容について、市民だよりやホームページに掲載し、わかりやすく積極的に紹介した。また、ポスター等掲示のための広報板の整備を行った。					継続	掲示物の損傷を防ぐために扉付広報板への取替えを継続的に実施している。情報提供は、多くが継続的に実施していることなので、マンネリ化を招く恐れがあり、新たな切り口でPRすることが必要である。					
6	ホームページによる情報提供	よかよかガイド、グループ・サークル名簿といった冊子のほか、市民講座詳細などをホームページに掲載した。						今後も継続して情報誌の作成、ホームページによる情報提供を実施し、学習機会の提供に努める。					生涯学習課
7	よかよかガイド等の生涯学習情報誌の作成及び更新	市民の生涯学習を支援するため、生涯学習情報誌(よかよかガイド、グループ・サークル名簿、指導者名簿)を作成及び更新した。											
8	公共施設予約案内システム事業	公共施設予約案内システムにより、家庭や職場のパソコン、携帯電話及び市内公共施設に設置の利用者用端末により、施設の予約状況、料金等の情報を提供した。						システムの老朽化に伴いシステムの機器更新をする。					
9	市民だより、ホームページへの掲載	各種大会やイベントなどのスポーツに関する情報やホームタウンパートナーチームの試合情報などを掲載することにより、市民への周知を図った。						今後も継続して、各種大会やイベントなどのスポーツに関する情報やホームタウンパートナーチームの試合情報などを掲載することに努める。					スポーツ課

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課
10	指定管理者自主事業(広報関係)	市と指定管理者が連携協働し、年に4回、「刈谷スポーツ&パーク通信」を発行(発行者は指定管理者)し、また、刈谷市ホームページにも掲載することで教室やイベントに関する情報などの市民への周知を行った。		継続	今後も継続して、刈谷スポーツ&パーク通信に情報を掲載することに努める。	スポーツ課
11	指定管理運営ホームページへの予約案内システムリンク等の掲載	指定管理者が運営する刈谷市総合運動公園のホームページに様々なスポーツイベントや予約案内システムのリンクを掲載することにより、施設申込の利便性の向上等を図った。			指定管理者と連携し、より分かりやすいホームページの作成に努める。	
12	情報提供	刈谷ホームニュース等の地域報道機関に対し表敬訪問等の情報を積極的に提供し、マスメディアを活用した市民へのスポーツ情報等の周知を図った。			今後も継続して、報道機関への積極的な情報提供に努める。	

5 情報の提供の総計 一人

総合型地域スポーツクラブ事業 (1 活動プログラムの充実)

No.	事業名	29年度事業内容	人数	評価	翌年度事業の課題及び変更点等	担当課
1	スポーツ教室・サークル・イベント(朝日)	地域の人々が、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりに努め、地域を活性化させるスポーツ振興のみならず、スポーツを通じた地域コミュニティの形成、青少年の健全育成、高齢者や障害のある人の社会参画の場としてスポーツ教室・サークルを開催した。開催種目(テニス、卓球、太極拳他)又野田・東刈谷地区文化祭では血液さらさら度チェックを実施、野田敬老会にも参加した。	550人	継続	会員の確保と活動場所の確保は大きな課題であり、地域ニーズを把握し、会員にとって魅力的教室・サークルを開設したり、指導者や運営委員の資質向上に努め、クラブの円滑な経営を目指していく。	スポーツ課
2	スポーツ教室・サークル(依佐美)	地域の人々が、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツができる環境作りに努めています。幼児から高齢者までが、同じ場でできるものから、能力に応じてクラスを分ける教室もあり、さまざまな状況に応じ、月曜日から土曜日までの間で開催できる時間と場所を確保して、スポーツ教室、サークルへの参加を促しています。開催種目(エアロビクス、ヨーガ、社交ダンス、ミニバスケットボール、バスケットボール、幼児体力アップ、卓球、ポールフィットネス、太極拳、体力アップ、バドミントン、空手、スポンジテニス、ソフトバレー等24教室・サークル)	343人		昨年同様に地域に根を下ろした、スポーツクラブを目指していきます。400名集まれば自立運営ができる。小学生や幼稚園児を対象に2講座増やしていく予定です。まだまだ人数にゆとりのある教室やサークルに活路を求めていく。	
3	スポーツ教室・サークル(刈谷東)	27年度より継続活動をしている未就学児と小学生の親を対象とした講座、3、40歳代をターゲットにしたストレッチ講座への取り込みが、まだまだ期待値に達していない。会員のリピート率は高いと感じているが、実績値として確認ができていない。バレーボールやバドミントン、卓球などの交流会は計画的に行う事が出来た。他クラブとの交流は実施する事が出来たが、非会員との交流については実施が出来ていない。バレーボールのエスコートや地域の開催行事やスポーツ大会に進んで参加出来た。会員の運営組織への参加についても積極的にアプローチした結果、新年度より増員をする事が出来た。中学生の会員取り込みについては、一部講座にて準会員として取り込む事ができた。	348人		事業は、助成に頼らないクラブづくり、スポーツ推進委員が作るクラブづくりからの脱却(会員によるクラブ運営)を進めていきます。会員で作るコミュニティの輪を拡大し、より多くの参加者を増やすことを目標とする。地域への情報発信に努め、クラブへの関心度を高めていく。極小化している閉鎖的なサークルやクラブと合議し、それらの人たちの活動の場を確保しつつ、新たな講座作りを模索する。現在無人化しているクラブハウスを有人化して情報発信の拠点になるよう模索していく。運営委員の役割を明確にし、それぞれの責任を明確にしていく。	
4	スポーツ教室・サークル(富士松)	新しくテニス教室を開催した。その他第11回となる健康イベントを開催し、参加者172名と盛況であった。会員数は一応300人は行きましたが、課題が残る。	303人		会員数は早めに300人を突破することを目標とする。指導者の入れ替わりもあるので、それに対処できる体制を日頃より作る。インリーダーの養成が課題である。また、会員の中から運営委員を輩出できよう体制を整える。	
5	スポーツ教室・サークル(雁が音)	地域のだれもが、身近にスポーツ活動ができるよう、環境作りに努め、スポーツを通じた地域コミュニティの形成、青少年、高齢者を問わず、スポーツ教室、サークルへの参加を促しています。教室(卓球、ソフトバレー、チアリーディング、ランニング、バドミントン、ヨガ、サッカー、テニス、ミニバスケット)、サークル(バドミントン、テニス)、頭脳スポーツ(囲碁、将棋、書道)を開催しています。各開催は月に2~3回で実施しています。また、アウトドア遊びクラブでは、月1回の会員中心参加でハイキング、ウォーキングイベントを開催。	441人		地域回覧板の活用、定期クラブ通信発行による広報活動や回覧板により新教室、イベント情報の発信を積極的に行い、会員数の増加につながる活動を推進していく。平日の昼間の有効利用するなど教室の会場確保が課題である。その他、新規サークルとして大人のミニバスケットを開催予定です。また、会員の確保拡大につながる活動の一環として月1回程度のアウトドア遊びクラブを継続して実施していく。	
6	スポーツ教室・サークル(刈谷南)	非常に幅広い多世代が楽しく気持ちの良い汗を流し、広範囲な地域の皆さんの参加と協力を得て、個々にあった各種スポーツ教室およびサークル活動を開催した。また、文化活動として絵手紙教室を年3回開催した。開催スポーツ教室(卓球、バスケットボール、バドミントン、ヒップホップダンス)、開催サークル(卓球、バスケットボール、バドミントン、ミニテニス、ソフトバレーボール、ニュースポーツ)	223人		「誰でも」「いつでも」「何処でも」「いつまでも」をスローガンとして活動し、4種目のスポーツ教室、6種目のサークル活動を開催する。他にクラブハウスを利用した絵手紙などの文化活動を開催する。また、他クラブや非会員との交流を図り、各種目での交流会などには積極的に参加する。人数の多い小学生バスケットボール教室の指導者および運営側のスタッフを充実させる。また、前事務局長が転勤によりクラブの運営できなくなったため、引き継ぎをスムーズに行い代わりのスタッフ(特に広報関係)を確保する必要がある。	

総合型地域スポーツクラブ事業の総計 2,208人

...評価指標に関わる人数